

日本臨床歯科学会大阪支部 2023 年度第 1 回学術大会の報告です。

今回は、大阪 SJCD の「真骨頂」ということで、大阪 SJCD 最高顧問であります本多正明先生、前会長であります米澤大地先生、現会長であります大森有樹先生の 3 名の先生方による講演でした。



はじめに、大森有樹先生から「大阪 SJCD の vision」のお話です。

大阪 SJCD のアドバンテージとは何でしょうか。

歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の三位一体

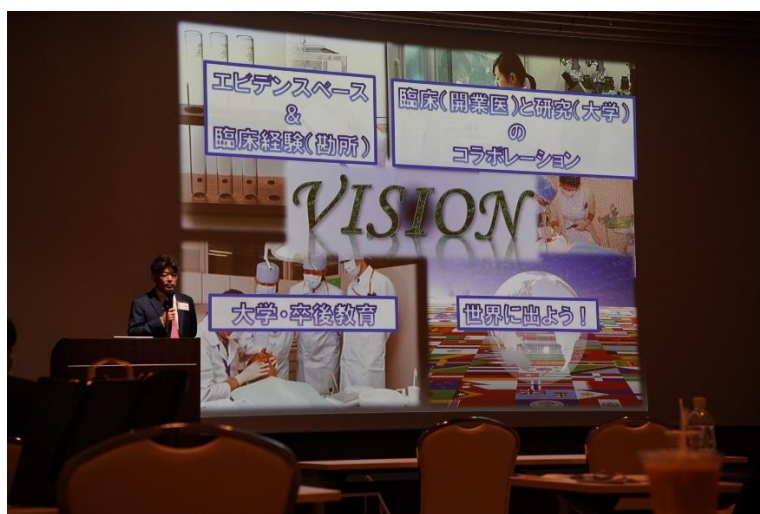
矯正インプラント治療を含めた包括的アプローチ

原因追求・リスク診断に基づく根本的解決歯科医療

咬合・力のリスク診断とコントロール、そして、longevity

これらの重要性に関して症例を通じ、説明していただきました。

そして、大阪 SJCD へ入会するメリットとして、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士それぞれに対する教育プログラムやオンラインスクールの話があり、「大阪 SJCD に入会すれば、必ず臨床力がアップする」という熱い気持ちになりました。



次に、米澤大地先生の「咬合平面への矯正的・補綴的アプローチ」に関するご講演です。
例えば、前歯部開咬に加え、臼歯部に欠損を認める患者に対して、インプラントを何本、いつ、どこへ埋入するのが適切なのでしょうか？

どのように矯正の治療計画を立てるのが適切なのでしょうか？

このような複雑なケースに対してシステムティックに矯正治療、インプラントや補綴治療を駆使して改善していくというアプローチを教えてくださいましたが、このような包括的歯科治療を学ぶことができるのは、「大阪 SJCD ならでは」なのではないでしょうか。



次に、本多正明先生には、改めて力のコントロールの大切さについて30年、40年といった貴重な長期予後を交えながらご講演いただきました。

私たちが日常的に行う補綴治療ですが、臼歯部咬合面形態や前歯部舌側面形態など、気をつけないといけないポイントがあります。

Longevityを得るために歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士はこのような力のコントロールをしっかりと理解する必要があるのではないのでしょうか。



最後に、大森有樹先生から「う蝕・歯周病・力（咬合）のリスク診断に基づく、根本的解決 歯科医療」という演題での講演でした。

まず、私たちの日常臨床の中で出くわす口腔内のトラブルに対し、原因を解明する必要性を分かりやすく説明頂いた。

特に力（咬合）に関しては、難しいイメージがありますが、冷静に一つずつ分析することにより、リスクを解明し、治療・メンテナンスに繋げることができます。



今回の例会では、原因→対応方法→longevity という大阪 SJCD のアドバンテージが発揮され、今後も大阪 SJCD が盛り上がっていきそうな熱いスタートでした。